

見分けてみよう！おいしいやさい
ど～れだ？秋・冬

網野文絵

スーパーや畠でおいしいやさいを見分けるにはどこに注目すればいいのでしょうか？秋・冬が旬のやさいの見分け方をクイズ形式で学び、自分で選んだやさいを食べて、食育につなげることができます。（あぶた読書の家所蔵）

読書の家から

あぶた読書の家

(☎ 76-2100)

[時間] 10時～16時30分 [休館日] 木曜日、祝日

みずうみ読書の家(☎ 76-2100(あぶた読書の家))

[時間] 9時～17時 [休館日] 木曜日、祝日

洞爺総合センター図書室 (☎ 82-5111)

[時間] 9時～16時30分 [休館日] なし



新刊案内

▲一般 ▽リクと暮らせ
ば（大崎梢）▽百年の時効（伏
美紀）▽さらば！店長がバ
カすぎて（早見和真）▽本で
した（又吉直樹・ヨシタケシ
ンスケ）▽災疫の季節（中山
七里）▽あやかしたち（畠中
恵）▽ブラックスワン（相場
英雄）▽職分（今野敏）▽菊
の慟哭（吉川英梨）▽神さま
ショッピング（角田光代）▽
总理にされた男 第二次内閣
(中山七里)▽どら蔵（朝井
まさて）▽罪と罪（堂場瞬二）
▽天上の火焔（遠田潤子）
△児童書▽きつねのなく
しもの（吉田誠治）▽おいし
そうなおつきみ（聞かせ屋。
けいたろう）▽だじやれいぞ
うこ！（うえだしげこ）▽の
せるだけ！パパっとどんぶり
(宮沢うらら)▽まんがでこ
とわざ・慣用句（ほんくん
△いつつごうさぎとはなのゆ
うえんち（まつおりかこ）▽
うえんち（まつおりかこ）▽
りりとネネのおばけパンケー
キ（田島かおり）▽3びきの
△トドにおとどけ
(大塚健太)▽ぱくぱくやの
ぐっさんとネズ（すごく良い）

△洞爺総合センター図書室
▲一般 ▽さよならジャ
バウオック（伊坂幸太郎）▽
カルテ（村山由佳）▽鎌倉茶
藝館（伊吹有喜）▽スピノザ
診察室（夏川草介）
△児童書▽注意読本（五味
太郎）▽かがみピカピカ（新
井洋行）▽わすれていいから
(大森裕子)▽トドにおとどけ
△トドにおとどけ
(大塚健太)▽ぱくぱくやの
ぐっさんとネズ（すごく良い）

ねずみひみつのおかしやさ
ん（いしいみえ）▽100こ
のかなうふしぎな日記 卒業へ
のカウントダウン（本田有明）
のたまご（ももろ）▽願いが
かなうふしぎな日記 卒業へ
のカウントダウン（本田有明）
△洞爺湖町に希望ある未来を
描くための「処方箋」につい
て考えてみようと思います。
鍵となるのは、観光客と
地域住民の利益を対立構造か
ら「共存・循環構造」へと転換
させる「仕組み」の構築です。
例えば、前々回の記事で触れた「宿泊税」。これを単なる徴
収システムで終わらせらず、そ
の使途を「生活道路の整備」や
「伝統祭事の継承」などに明確
化し、住民がその恩恵を肌で
感じる制度にすること。ある
いは「空地・空家等の公益に資
する利活用」や「地域通貨の流
通促進」などを通じて、外資
などに流出しがちな利益を町
内で循環させるパイプライン

絵本の玉手箱 1月のおはなし会

母子の冬まつり

■日 時 1月17日(土)10時～11時30分

■場 所 あぶた母と子の館

キッズタイム

■日 時 1月24日(土)10時～11時30分

■場 所 あぶた母と子の館

■対 象 未就学児および保護者

■問合せ 佐藤 (☎ 76-2487)

地域おこし協力隊 通信

vol.92

今月の
リポーター
亀田 昇吾さん

これまでの記事で、「住
民の暮らしの質の低
下」が巡り巡って「観光地」と
しての「価値毀損」を招く構造
を整理しました。今回は、
この負の連鎖を断ち切り、
洞爺湖町に希望ある未来を
描くための「処方箋」につい
て考えてみようと思います。
鍵となるのは、観光客と
地域住民の利益を対立構造か
ら「共存・循環構造」へと転換
させる「仕組み」の構築です。
例えば、前々回の記事で触れた
「宿泊税」。これを単なる徴
収システムで終わらせらず、そ
の使途を「生活道路の整備」や
「伝統祭事の継承」などに明確
化し、住民がその恩恵を肌で
感じる制度にすること。ある
いは「空地・空家等の公益に資
する利活用」や「地域通貨の流
通促進」などを通じて、外資
などに流出しがちな利益を町
内で循環させるパイプライン
を太くすること。さらに、綿
密なゾーニングやきめ細やか
なまちづくりの仕掛けによっ
て「観光の賑わい」と「生活の
静寂」を住み分け、観光公害
を緩和することも重要です。
「観光客が増えるほど生
活サービスが充実し、地元
の方々がそう実感できて初
めて、観光客は「迷惑な存
在」から「地域を支えるパ
ートナー」へと変わります。こ
の意識変容と信頼関係こそ
が、持続可能な観光地経営
の正体であり、理想形です。
その実現には、美しいビ
ジョンと、きめ細かく柔軟
な実行力が不可欠となりま
す。これから一人の洞爺湖
町民として、観光産業が生
む富が地域内を豊かに巡る
「循環のエンジン」を、具体
的な事業として一つずつ実
装していきたいと思います。